

## 4/2 『イエスのからだと血をいただく』（マルコ14：17～26）

長谷川 望 牧師

- \* 十字架の日の前日、主イエスは12弟子と共に食事をとられた。「最後の晩餐」である。これはモーセがイスラエルを率いてエジプトを脱出する際に主から命令された「過越しの食事」であった。その席上、主イエスは、今わたしといっしょに鉢に浸している者がわたしを裏切る、という衝撃的なことを言われた。そのあと、今日まで2千年以上にわたって続いている教会の聖餐式の原型になったことが行われる。
- \* 「それから、みなが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福した後、これを裂き、彼らに与えて言われた。『取りなさい。これはわたしのからだです。』」（マルコ14：22）「わたしのからだ」には二つの意味がある。一つはこのすぐあと、主イエスは裁判にかけられ、鞭打たれ、十字架につけられてからだを極限まで痛めつけられて、死にまでいたる。その「からだ」である。もう一つは、「これは天から下って来たパンです。あなたがたの父祖たちが食べて死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きます。」（ヨハネ6：58）と言われたように、パンは永遠のいのちを与える主イエスのからだを表わす。
- \* 「また、杯を取り、感謝をささげて後、彼らに与えられた。彼らはみなその杯から飲んだ。イエスは彼らに言われた。『これはわたしの契約の血です。多くの人のために流されるものです。』」（マルコ14：23～24）パンもブドウ酒も毎日食事の時にいただくものであるが、主イエスはこの日、この時、これらに特別な意味を持たせられた。「これはわたしの契約の血」は、次の日、十字架で流される血を表わしている。出エジプト24章にあるように、神とイスラエルの民の間の古い契約（旧約）は、しるしとして雄牛の血が用いられた。主イエスは全世界の人々との新しい契約（新約）を自らの血をしるしとして、結ばれたのである。イエスが神の御子であり、救い主であることを信じること、そうすれば罪の赦しと永遠のいのちが与えられるという恵みの契約である。
- \* 弟子たちは一つのパンから食べ、一つの杯から飲んだ。聖餐の行為は主にある交わりの原点である。そこにはキリストが必ず中心におられる。再び主が来られるまで行い続けなさいと言われた。私たちはただそれを守るのではなく、その意味を深く知り、感謝をもってあざかりたい。